

「深い学び」につながる「見方・考え方」について

研修部 菊池

新学習指導要領では、各教科等の目標の中に「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という、その教科等ならではの物事を捉える視点や考え方として「見方・考え方」が位置づけられています。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善において、特に「深い学び」の鍵となる『見方・考え方』を働かせることについて、算数と外国語でのポイントをまとめました。

I 算数編

【「数学的な見方・考え方」とは？】

数学的な見方	事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目してその特徴や本質を捉えること
数学的な考え方	目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、根拠を基に筋道立てて考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能等と関連付けながら、統合的・発展的に考えること

【「統合的・発展的」とは？】

統合的に考察する	異なる複数の事柄をある観点から捉え、それらに共通点を見出して一つのものとして捉え直すこと
発展的に考察する	物事を固定的なもの、確定的なものと考えず、絶えず考察の範囲を広げていくことで新しい知識や理解を得ようとする

II 外国語活動編

【「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは？】

外国語によるコミュニケーションにおける見方	外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉えること (相手に十分配慮する視点)
外国語によるコミュニケーションにおける考え方	コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること (適切な言語材料の活用、思考判断して情報を整理、自分の思いや考えの形成・再構築)

小学校 数学的な見方・考え方

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること

領域	見方(例) 《事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え》	考え方(例) 《根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考える》
数と計算	数量や大きさに着目する。構造を捉えるために場面に着目する。など	比較可能性に着目する。数直線上の位置に着目する。計算の可能性に着目する。など
量と測定	量(ものの大きさ)に着目する。など	もの大きさの基になる大きさ(単位)に着目する。など
図形	形に着目する。(低～)など	図形の構成要素に着目する。(2年～) 図形の構成要素の位置関係に着目する。(4年～) 形と大きさの観点から、図形相互の関係に着目する(5年～)など
数量関係	関数	数量や図形についての事柄と、他の捉えやすい事柄との関係に着目する。など
	式	構造を捉えるために、場面の数量の関係に着目する。など
	資料	集団の傾向や変化の様子などを捉えるために統計的なデータに着目する。など